

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01212

研究課題名（和文）キリスト教美術におけるイメージの意味と物質性：新たな図像学の構想に向けて

研究課題名（英文）The Meaning and Materiality of Images in Christian Art: Toward a New Conception of Iconography

研究代表者

木俣 元一（Kimata, Motokazu）

名古屋大学・人文学研究科・招へい教員

研究者番号：00195348

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,000,000円

研究成果の概要（和文）：美術作品等のイメージには、記号的・表象的側面と物質的側面の両面性があるが、近年は後者に基づくイメージの現前や行為遂行性の解明に重点を置く研究が活発化している。本研究では、両者を統合する新たな図像学の構想を進めた。具体的には、キリスト教美術史、歴史学、人類学、仏教図像学の研究者が協働し、イメージの物質性に基づく宗教的経験と一体化した意味産出/豊富化のモデル構築から出発して、キリスト教美術などの事例研究の実践と蓄積により、その諸様態を解明し、これらの成果を踏まえて、意味と物質性を統合する新たな図像学の定義と有効な方法を体系化して提案し、より包括的・総合的な図像学的探究の展開へと結びつけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

美術作品の記号的・表象的側面に限定されない図像研究を実践し、キリスト教を含む宗教美術研究の可能性を大幅に拡張する。

美術作品のみならず、人文科学が対象とする資料は一般に物質的な存在様態を伴う。これに対し、対象から記号的・表象的側面に基づく意味だけを抽出し、物質性を捨象した解釈を行う、人文科学全般に共通するアプローチに対して強い批判がなされてきた。こうした偏向への批判に回答し、理論的/実践的な解決の可能性を提示する。

宗教的イメージは、本来、美術史研究の枠組に収まりきらない広がり備える。歴史学に加え、より広い人類

研究成果の概要（英文）：Images in works of art have both symbolic/representational and material aspects, and in recent years, research focusing on elucidating the presence and action-performance of images based on the latter has been gaining momentum. In this study, we have advanced the concept of a new iconology that integrates the two. Specifically, researchers in the history of Christian art, history, anthropology, and Buddhist iconography collaborated to construct a model of meaning production/abundance that is integrated with religious experience based on the materiality of images, and clarified various aspects of this model through the practice and accumulation of case studies of Christian art and other art forms. Based on these results, we have systematized and proposed a new definition and effective method of iconography that integrates meaning and materiality, leading to the development of a more comprehensive and integrated iconographic inquiry.

研究分野：美術史

キーワード：図像学 キリスト教 イメージ 物質性 エージェンシー 宗教

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 美術作品が何を意味し、表しているかは、作品を前にした時に誰もが発する、基本的な問いかけである。これは、イメージを成り立たせる記号的・表象の様相と物質の様相のうち、前者に注目する。アーウィン・パノフスキーは、『イコノロジー研究』の冒頭で、「イコノグラフィは美術史の一部門であって、美術作品の形に対置されるところの主題・意味を取り扱うものである」と述べる(Panofsky, 1939)。このように、美術史において図像学が確立され、形と意味の歴史的關係を模索しつつあった19世紀から20世紀中頃にかけては、作品解釈はその意味の解明を目指していた。

(2) 他方、1980年代以降、人文学全般で「ヴィジュアル・ターン」等と呼ばれるパラダイム・シフトが起こり、以前の言語を基盤とする研究から、視覚的メディアを中心的対象として据えた研究のあり方への移行が急速に進行した。視覚文化、歴史学、人類学など美術史以外の多くの研究分野が加わり、美術を含む多様なイメージや事物の解釈に根本的な変革をもたらしてきた。とくに近年では人類学的な観点から、伝統的図像学からこぼれ落ちてしまうイメージの物質性(マテリアリティ)に光が当てられる。物質性に注目すると、イメージは記号や表象としてではなく、存在/現前(プレゼンス)として捉えられ、文化人類学者アルフレッド・ジェルは、人間やモノと同じくイメージを行為者(エージェント)と位置づけ、その後の活発な研究に道を拓いた(Gell, 1998)。

(3) こうした展開の中で、伝統的図像学が目指してきたイメージの記号的・表象的側面に主眼を置く意味論的解釈と、その物質性に着目し存在や行為遂行性の解明に重点を置く最近の研究動向という2つの方向性の乖離は依然として残されたままであり、ジェローム・バシェが指摘するように、イメージの十全な理解に向けて、両者の統合が重要な課題となっている(Baschet, 2010)。本研究は、このような研究の現状を背景として、キリスト教社会におけるイメージの在り方を再考し、物質性に基づく宗教的経験において産出/豊富化される意味の複合的領域も射程に取り込んだ、新たな総合的図像学の構想と実践に向けて研究を推進するものである。

2. 研究の目的

(1) イメージはその物質性により、その受容者及び他の多様な事物とともに空間的・社会的ネットワークの中に位置づけられ、そのネットワークを媒介として意味を産出/豊富化すると考えられる。このネットワークの在り方と意味産出/豊富化のモデルを、ヨーロッパのキリスト教世界を中心に、美術史・歴史学・文化人類学の共同作業により明らかにする。

(2) こうしたモデルに基づき、古代末期・初期中世からルネサンス・宗教改革期に至る多種多様なキリスト教美術を対象に、その濃密な意味産出/豊富化の諸様態を、多面的・複合的アプローチに基づく歴史的事例研究の実践と蓄積を通じ、詳細に明らかにする。

(3) モデルの構築と事例研究の成果に基づき、イメージの記号的・表象的側面と物質性を結ぶ新たな図像学の理論的基盤を構築し、その実践のために有効なツールとなる多面的で体系的なアプローチを洗練させることにより、イメージ・物質・言葉による宗教経験及び認識の構築を総合的に明らかにするべく、今後の研究上の展開へと結びつくよう準備を進める。

3. 研究の方法

(1) 宗教研究、文化人類学、美術史、歴史研究などの分野で推進されている最新の研究動向を踏まえ、本研究を推進するための理論的基盤を構築する。

(2) イメージの物質性による意味産出/豊富化のモデル構築：従来の図像学では、注文者・制作者・受容者などの立場にある何らかの主体がイメージを対象として解釈を行うという、主体/客体のモデルに依拠してきた。これに対し、本研究ではオルタナティブなモデルを提案する。すなわちイメージは、その物質性ゆえに空間的・社会的ネットワークの中に他の人工物・自然物・人間とともにエージェントとして布置され、このネットワークを媒介とする相互関係のもとに成立する多種多様な宗教的経験と一体化し、そのプロセスの中で発動する記号的・表象的側面も関与して、意味が産出/豊富化される。このモデルでは、同一のイメージであっても、置かれる状況や宗教的経験の内実との関係性に依拠して、意味作用の様態が幅広く変化する。こうした意味は当初から固定されたものではなく、濃密かつ複層的・両義的・対立的で時に決定不能でもあり、

しばしば言語に回収され得ない次元を伴う。また意味産出の担い手となる人物の性別・階層・年齢・知識・身ぶり・姿態・感情・心的状態等の諸条件にも左右され得る。

(3) イメージがもたらす宗教的経験における意味と物質性に関する事例研究の実践：上記(1)で示した意味産出/豊富化モデルを援用しながら歴史的事例に基づいてその様態を明らかにするため、古代末期・初期中世からルネサンス・宗教改革期に至る多様なキリスト教美術を対象に、代表者(木俣)とキリスト教美術史関係の分担者(秋山、水野、奈良澤、駒田)を中心として、国内外から招く多数の協力者の参加も得つつ、調査や資料収集により詳細な事例研究を多数積み重ね、新たな図像学の構築に向けて有効な情報を蓄積する。

(4) 新たな図像学の理論的基盤の構想：上記(3)で示した具体的な事例研究により得られた成果を研究にフィードバックし、より精緻化されたモデルとともに、記号性・表象性と物質性を統合する新たな図像学の在り方を定義し、有効な実践的方法・アプローチの観点と併せて体系化して提案することで、より包括的・総合的な図像学の探究への展開を準備する。

4. 研究成果

(1) 本研究課題の出発点として、宗教的経験においてイメージの物質性を中心にしながら意味産出/豊富化の問題を考察する理論的基盤を構築するため、宗教研究、人類学、美術史における最新の研究状況を踏まえ、以下のような確認を行った。

真正なる宗教は確立された教義と正典(カノン)をそなえており、信仰の正統性は言葉によって分節された信条によって保証されるものであって、ある宗教について知るためには何よりも教典という書かれた言葉(テキスト)に向かうべきであるという見方も根づよい。そのため、宗教に関する研究は主として文献資料に基づいて行われてきた。身体的なもの、物質的なもの、感覚的なものはずっと劣ったものとして位置づけられ、モノを信仰し書かれた言葉を持たない宗教は、その名に値せず自然状態に近い発展途上のプリミティヴなもの、あるいは宗教という名に値しない迷信や魔術のたぐいと見られている。しかしながら、実はこのような宗教観は、主としてヨーロッパ世界において初期近代以降プロテスタンティズムの自己イメージをもとに歴史的に形成されてきたものであり、決して普遍的なものではなく、かなり偏ったものであることが明らかになっている。人間が物質からなる身体をそなえ、物質からなる環境の中において生存できているからこそ、その思考や行為が成り立つことを考えると、完全に非物質的な宗教という概念は虚構にすぎないと言ってよく、宗教は必ずしも信仰を前提としないが、つねに物質的形態をともなっている点が確認できた。イメージを含む物質的存在は、宗教の内実を表象するのではなく、宗教自体を成り立たせる不可欠な構成要素となっている。

人類学の分野において比較的最近活性化した「物質性」を主題化した議論を、ダニエル・ミラー、ケンブリッジ大学のマクドナルド考古学研究所、ティム・インゴルド、ピエール・ルモニエらによる研究において「物質性」という用語がどのように理解されたのかをたどり、ブルーノ・ラトゥールによるフェティッシュおよびアクター・ネットワークをめぐる議論、さらにモノが社会的・文化的に意味づけられ、価値づけられる体系が複数の種類並存し相互に矛盾する事態や、モノの意味と価値が行為の文脈によって可変的である場合も視野に入れた。また、アルフレッド・ジェルが様式をそれが属する文化の特徴を反映したものとする考え方に懐疑的な見解を示している点にも注目した。これまでの議論では物質性をめぐる論点がきわめて多岐にわたっており、物質性の定義が必ずしも明確とはいえないが、この概念は厳密な意味での分析概念というより、むしろ新たな問題や課題を発見する上で一定の有効性をもち、議論の過度な抽象化を抑制しつつ、幅広い研究対象を扱い得る共通のキーワードのひとつであることを確認した。加えて、物質性という用語を使用することで生じる懸念は、物を注視せず、その特性や属性を軽視しかねないという点についても留意すべきである点、近代における特殊な知的枠組みと制度の中で、美術品、人工物・器物、民族誌資料などに差異化され、分類されてきた諸々の物とそれに関係する諸実践を、共通の地平でとらえなおす可能性について確認した。

1980年代に前景化するいわゆるニュー・アート・ヒストリーと称される動向に見られる萌芽的研究から、ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ、マテリアル・カルチャー・スタディーズなどの方法論的展開を経て、近年、他の学問領域(人類学、民族学、社会学、歴史学、メディア研究、宗教認知科学、神経科学、等)との横断的な対話を通じて、間文化的かつ時間・空間的コンテクストを縦横しながら、「物質性」をめぐる新たな問いや理論的アプローチが提起されている。そこでしばしば言及されるのは、「語る主体としての事物」、「芸術とエージェンシー」、「イメージの力」、「事物のエージェンシー」など、いわば生命なき物質に何らかの力や行為主体性を認めようとする概念である。とくにこのようなアプローチに関わる言説の歴史を古代のプリニウス、キリスト教のイコンの起源に関わる伝説、アルベルティの『絵画論』(ラテン語版、1435年)を経てアビ・ヴァールブルク、さらにはデイヴィッド・フリードバーグ、ハンス・ベルティング、W・J・T・ミッチェル、ホルスト・ブレーデカンブといった現代の美術史研究に至るまでたどり、人類学、社会学、歴史学、宗教認知科学、マテリアル・カルチャー・スタディーズなどの動向を視野に入れて展望することにより、本研究課題の理論的基盤を再確認した。

(2) 上記(1)でまとめられた理論的基盤をもとにして、イメージが、その物質性ゆえに空間的・社会的ネットワークの中に他の人工物・自然物・人間とともにエージェントとして布置され、このネットワークを媒介とする相互関係のもとに成立する多種多様な宗教的経験と一体化し、そのプロセスの中で発動する記号的・表象的側面も関与して、意味が産出/豊富化される作業仮説的モデルの構築を行うとともに、下記(3)の事例研究に基づきその精緻化を進めた。このモデルでは、同一のイメージであっても、置かれる状況や宗教的経験の内実との関係性に依りて、意味作用の様態が幅広く変化する。こうした意味は当初から固定されたものではなく、濃密かつ複層的・両義的・対立的で時に決定不能でもあり、しばしば言語に回収され得ない次元を伴うものである。このモデルを構成する要素として以下のものが挙げられる。1) 空間的關係性、2) 時間的關係性、3) モビリティ・操作性、4) 可視性/不可視性、開示/隠蔽、5) 媒材/素材/媒体、6) 五感への働きかけ、7) 装飾と文様、8) 技術・技法・テクノロジー、9) 奇跡的イメージ、10) 文字、11) 発話、発声、13) 身体、現前、不在、14) 動物や植物などの生命体。

(3) 上記(2)のようなモデルに即して、多様な領域において具体的な事例研究を推進した。その主要な成果は、木俣元一・佐々木重洋・水野千依編『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』(三元社 2022年刊)にまとめられている。以下ではこれらの主要な成果の概要を記すことにする。

いかにして人間が神を想起し、神と交渉するかという問いを考察するため、物質性という観点を持ち込むことで「視覚的タイポロジー」の射程を拡張し、美術や多様な事物を通じて提供された神の自己開示としての「フィギュラ(テュポス)」に信者がその身体と五感とともに参与する様態を、聖餐の秘跡とキリストの犠牲的死による贖罪を通じた救済を中心的テーマに、12世紀のコデックス(冊子体の写本)における仮想空間が、ストラスブル大聖堂南袖廊の現実空間へと「翻訳」されたプロセスを論じた。

像の生動性をめぐる夢や幻視、あるいは奇跡について、像のエージェンシーと聖遺物崇敬から説き起こし、聖像の生動性をめぐる伝説、ドイツ修道院長ルペルトゥスの夢におけるキリスト磔刑像とのキス、シレジア公妃ヘドウィクの幻視、シトー会の修道女オーヴァーヴァイマルのルカルディスの幻視、ドミニコ会修道女マルガレーテ・エーブナーの幻視、明恵上人の夢における像の「生身化」といった東西の事例を挙げつつ論じた。

いかにして物質/像が超越的存在の力を行使し、人格を代理するのかという問いに対し、ヴァールブルクの「図像記憶」というアナクロニズム的概念、そしてコンゴの呪物ンキシを中心としてキリスト教の聖像(聖女フィデス像、「主日のキリスト」など)を配置する独自の図像アトラスに導かれ、西ザイルのバ・コンゴ州とその近隣に見られる呪物ミンキシが換喩的連辞および隠喩的範列の織物として人格化され、そこに複合的アイデンティティが累積的に結晶化される現象をキリスト教聖像と比較する議論を展開した。

金沢市東部の卯辰山にある真成寺鬼子母神堂に祀られる鬼子母神像を主たる研究対象として、鬼子母神と十羅刹女の説話と図像の伝統に言及し、真正寺に保存され国の重要有形民俗文化財の指定を受けた、一千点にのぼる着物、柄杓、提灯などの多様な奉納物に加え、大量の奉納写真について詳細に考察する。さらに鬼子母神像のほほえんでいるとされる表情の意味を伝統的理解から大きく転換することにより、人々がこの像にどのような祈願を託してきたのかに関して独創的解釈を提示した。

7世紀までのキリスト教聖堂を対象に、神という超越的存在に対する礼拝空間において用いられた石、大理石・貴金属といった豪華な素材、木・布・花・灯といった考古学的資料として残りにくい素材などの物質自体の宗教的象徴性、古代世界から継承した世俗的価値、さらに内在する力といった観点からその物質性をめぐる多様な様相を明らかにする。この空間における玉座、キボリウムや天蓋などの典礼設備とその図像的表象に見られる天上的な象徴性との関係性についても考察を試みた。

長年に渡り参与観察を続けてきた愛知県奥三河の花祭を対象として、宗教的教義や宗教実践の反映や具現化として意味を探ることの不可能性を指摘し、その「神人和合」の過程を人間の五感により感知される神人の同一化であるとして、これが神格的存在、身体を持った人間、長い歴史のなかで関わってきた祖先、祭具、祭文、供物といった多様な作用者が参与し、能動性と受動性が絡み合う中動的な実践であり、様々な事物の物質性とそれを通じた物質的関与を媒介として初めて可能となると提唱した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 49
2. 論文標題 「ブッシュの靈魂」の物質性と融即の美学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤江雄一	4. 巻 15
2. 論文標題 「感情の共同体」としての学識ある聖職者 14世紀の説教の聴衆	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 49
2. 論文標題 フラ・アンジェリコと無形象：サン・マルコ修道院ドルミトリオの白と闇	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 21
2. 論文標題 西洋中世美術におけるダイアグラム：科学・宗教・芸術	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 西洋美術研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒田亜紀子	4. 巻 37
2. 論文標題 『十三世紀フランス語聖書』(Bible française du XIIIe siècle) 彩飾写本研究: 13世紀後半におけるパ リ彩飾写本市場の変容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践女子大学美術史学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 49
2. 論文標題 「ブッシュの靈魂」の物質性と融即の美学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 4
2. 論文標題 ジャン・バオロ・ロマツォ『絵画殿堂のアイデア』(ミラノ、一五九〇年):抄訳・註釈	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部附置人文科学研究所論叢	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤江 雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 放浪する説教者ジョン・ポール ロラード派直前の異端	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 旅するナラティブ 西洋中世をめぐる移動の諸相	6. 最初と最後の頁 135-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤江 雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 揺らく言葉と説教者の権威 教皇ヨハネス 22 世の至福直観の教義をめぐる説教	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ことばの力 キリスト教史・神学・スピリチュアリティ	6. 最初と最後の頁 55-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤江 雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 John XXII as a Wavering Preacher: The Pope ' s Sermons and the Norms of Preaching in the Beatific Vision Controversy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Communicating Papal Authority in the Middle Ages	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 1
2. 論文標題 「物質性」から広がる人類学研究の地平	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 1
2. 論文標題 生命体と非生命体とのあわい 美術史研究における「物質性」の射程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 1
2. 論文標題 至聖所のカーテンとストラスブル大聖堂南袖廊 タイポロジーにおける物質性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 188-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 1
2. 論文標題 夢ないし幻視における像の生動性についての比較美術史的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 219-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 1
2. 論文標題 分配される人格 / 結晶する人格 像の人格化をめぐる文化横断的比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 293-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森雅秀	4. 巻 1
2. 論文標題 金沢市真成寺の鬼子母神像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 404-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良澤由美	4. 巻 1
2. 論文標題 キリスト教礼拝空間における典礼設備の物質性と象徴性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 457-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 1
2. 論文標題 神格との相互交渉と物質性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依編 『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社	6. 最初と最後の頁 627-658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒田亜紀子	4. 巻 36
2. 論文標題 『十三世紀フランス語聖書』(Bible française du XIIIe siècle) 彩飾写本研究: オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館所蔵《新約聖書》におけるヨハネ伝挿絵について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践女子大学美術学術史学	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 1
2. 論文標題 「社会彫塑」における「刻印」のテーマ: ヨーゼフ・ボイスと中世	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 豊田市美術館 『ボイス/リーダー』	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 1
2. 論文標題 聖なるものと遺産に関する覚書：研究への助走として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・近本謙介（編）『宗教テキスト遺産学の創成』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 367-378
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 1
2. 論文標題 聖なるモノの来し方、行く末：教会宝物をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・近本謙介（編）『宗教テキスト遺産学の創成』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 379-396
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 1
2. 論文標題 天の原型を計測する：有形・無形宗教遺産としての聖地エルサレムとその複製	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・近本謙介（編）『宗教テキスト遺産学の創成』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 441-466
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森雅秀	4. 巻 1
2. 論文標題 曼荼羅の分類を問い直す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木俣元一・近本謙介（編）『宗教テキスト遺産学の創成』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 127-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 48
2. 論文標題 神の像 (imago Dei) と非類似ー失われた姿をもとめて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿島美術財団『美術講演会講演録』	6. 最初と最後の頁 37-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良澤由美	4. 巻 4
2. 論文標題 双立教会 考 古代教会の空間機能と祭壇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 まなざしの論理 空間史学叢書	6. 最初と最後の頁 211-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良澤由美	4. 巻 12
2. 論文標題 カロリング朝時代の組み紐装飾の記憶	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 34-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良澤由美	4. 巻 1
2. 論文標題 初期中世美術における『古代』、『古典』、『擬古』 ガリアの柱頭を中心とする事例からの考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古典主義再考I：西洋美術史における「古典」の創出	6. 最初と最後の頁 77-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 20
2. 論文標題 聖像/偶像のエージェンシーをめぐるノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋美術研究	6. 最初と最後の頁 144-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 62
2. 論文標題 聖像と聖なるモノのエージェンシー：比較宗教美術史の試み (シンポジウム記録 東西の聖なるもの：比較文化論を拓く)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 10-19, 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 36
2. 論文標題 聖像と観者とのインタラクティブな関係をめぐって：比較宗教美術史的観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学文学部美術史学研究室『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 76-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 38
2. 論文標題 造形イメージの着装についての若干の考察 - 比較宗教美術史的観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治学院大学言語文化研究所『言語文化』	6. 最初と最後の頁 24-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森雅秀	4. 巻 1
2. 論文標題 総論 パーラ朝の仏教美術概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立川武蔵・森雅秀編著『アジア仏教美術論集 インド ポスト・グプタ朝-パーラ朝』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 3-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森雅秀	4. 巻 1
2. 論文標題 オリッサ州ソーランブル出土の釈迦八相図	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立川武蔵・森 雅秀編著『アジア仏教美術論集 インド ポスト・グプタ朝-パーラ朝』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 161-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 36
2. 論文標題 鎮めをおこなうサカキサマ 奥三河、花祭の榊鬼と地域性再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民族藝術学会誌 arts/	6. 最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 1
2. 論文標題 ゴシック建築における円柱と古典主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 木俣元一・松井裕美編『古典主義再考 : 西洋美術史における「古典」の創出』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 105-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木俣元一	4. 巻 20
2. 論文標題 中世画像学の展開 デイドロンからシャピロまで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋美術研究	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 3
2. 論文標題 花祭の『鎮め』と榊鬼	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HERITEX	6. 最初と最後の頁 111-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 40
2. 論文標題 徳の伽藍 - 中世キリスト教における魂の装飾	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 36
2. 論文標題 鎮めをおこなうサカキサマ 奥三河、花祭の榊鬼と地域性再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民族藝術学会誌 arts/	6. 最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 3
2. 論文標題 花祭の『鎮め』と神鬼	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HERITEX	6. 最初と最後の頁 111-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒田亜紀子	4. 巻 88
2. 論文標題 13世紀後半 北フランス制作『ラテン語ウルガータ訳聖書写本』: 中世フランスの掌中の聖書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西学院大学図書館報『時計台』	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木重洋	4. 巻 -
2. 論文標題 ネットワークとしての地域概念と関係性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和崎春日 (編) 『響きあうフィールド、躍動する世界』、刀水書房	6. 最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤江雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 John XXII as a Wavering Preacher: The Pope's Sermons and the Norms of Preaching in the Beatific Vision Controversy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communicating Papal Authority in the Middle Ages, ed. by Minoru Ozawa, Georg Strack, Thomas Smith (London: Routledge, 2020)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 奈良澤由美
2. 発表標題 古代末期の『聖人の墓』の記憶とその回復 ～ 発掘・研究史の再検証
3. 学会等名 シンポジウム「古代」の記憶の回復をめぐる
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 基調講演
3. 学会等名 宗教遺産をめぐる真正性：宗教テキスト学の発展的展開（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 物質的 / 概念的スポリア
3. 学会等名 宗教遺産をめぐる真正性：宗教テキスト学の発展的展開（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 宗教遺産としてのキリスト教美術
3. 学会等名 宗教遺産文化学の挑戦（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 駒田亜紀子
2. 発表標題 13世紀パリにおける彩飾写本レパトリーの多様化と托鉢修道会
3. 学会等名 中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 聖地と絵図 - 人文学が地域を繋ぐ
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラム in 本郷 『羽黒と熊野 : 聖地と絵図』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 Invitation to Kumano
3. 学会等名 Invitation to Kumano with Etoki Performance: A Case of Regional Cooperation applying Humanities by the University of Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 見えないものをいかに見せるか - 比較美術史の観点から
3. 学会等名 宗教遺産をめぐる真正性：宗教テキスト学の発展的展開（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良澤由美
2. 発表標題 Le decor sculpte entre Antiquite tardive et haut Moyen Age en Provence
3. 学会等名 Colloque du Trentenaire de la mort de Paul-Albert Fevrier (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森雅秀
2. 発表標題 清涼寺釈迦如来像と能「百万」
3. 学会等名 第72回仏教史学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 キリスト教中世の世界地図(mappa mundi) 鳥瞰的眺望とその彼岸
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラムin本郷『羽黒と熊野 : 聖地と絵図』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良澤由美
2. 発表標題 考古的実体と表象の象徴：キリスト教典礼設備研究についての報告
3. 学会等名 日仏美術学会創立40周年記念シンポジウム「フランス美術研究の現在と未来 -日仏学術交流の進展を目指して-」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 モニュメンタルな様式の起源：シャルトル大聖堂「王の扉口」の忘れられた彫刻
3. 学会等名 日仏美術学会創立40周年記念シンポジウム「フランス美術研究の現在と未来 -日仏学术交流の進展を目指して-」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 Theoriaへの道（ductus）とvarietas サン＝ヴィクトルのフーゴーからオピキヌスへ
3. 学会等名 初期近代の文芸・芸術におけるvarietasとinventio
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 天の原型を計測する：悔悛と救済への道程（ductus）
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラム（第二回）『災いと救い：聖地の生成と変容』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 ロマネスクでもゴシックでもないもの
3. 学会等名 第20回新約聖書画像研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 中世美術から見たヨーゼフ・ボイス
3. 学会等名 豊田市美術館「ボイス+パレルモ」オンライン・レクチャー・シリーズ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木俣元一
2. 発表標題 Images de “donateurs” dans la cathedrale gothique: Ruskin, Huysmans et Proust
3. 学会等名 Ruskin et la France, colloque international (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 駒田亜紀子他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 国立西洋美術館	5. 総ページ数 100
3. 書名 文字と絵の小宇宙 国立西洋美術館 内藤コレクション写本リーフ作品選(改訂版)	

1. 著者名 水野千依、駒田亜紀子、赤江雄一、奈良澤由美、木俣元一他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 西洋中世文化事典	

1. 著者名 赤江雄一他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 LIT	5. 総ページ数 280
3. 書名 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)	

1. 著者名 赤江雄一他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 240
3. 書名 神・自然・人間の時間：古代・中近世のときを見つめて	

1. 著者名 赤江雄一他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 修道制と中世書物：メディアの比較宗教史に向けて	

1. 著者名 森雅秀	4. 発行年 2024年
2. 出版社 アジア図像集成研究会	5. 総ページ数 330
3. 書名 御室版両部曼荼羅集 [初版]	

1. 著者名 水野千依他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 400
3. 書名 はるかなる「時」のかなたに：風景論の新たな試み	

1. 著者名 水野千依他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 -
3. 書名 聖人崇敬の歴史	

1. 著者名 駒田亜紀子、水野千依、木俣元一他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 790
3. 書名 キリスト教文化史辞典	

1. 著者名 佐々木重洋他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 440
3. 書名 世界の仮面文化事典	

1. 著者名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 680
3. 書名 聖性の物質性 人類学と美術の交わるところ	

1. 著者名 木俣元一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 610
3. 書名 ゴシック新論 排除されたものの考古学	

1. 著者名 木俣元一・近本謙介（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 698
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 宮崎法子・森 雅秀（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 600
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジアⅤ 元・明・清	

1. 著者名 赤江雄一・岩波敦子（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶応義塾大学言語文化研究所	5. 総ページ数 246
3. 書名 中世ヨーロッパの「伝統」 テクストの生成と運動	

1. 著者名 立川武蔵・森 雅秀（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 656
3. 書名 アジア仏教美術論集 インド ポスト・グプタ朝ーパラ朝	

1. 著者名 木俣元一・松井裕美（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 古典主義再考 : 西洋美術史における「古典」の創出	

1. 著者名 森雅秀、宮坂宥明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 330
3. 書名 チベット密教仏図典	

1. 著者名 長野泰彦・森雅秀編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 398
3. 書名 チベットの宗教図像と信仰の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 重洋 (Sasaki Shigehiro) (00293275)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	駒田 亜紀子 (Komada Akiko) (00403866)	実践女子大学・文学部・教授 (32618)	
研究分担者	水野 千依 (Mizuno Chiyori) (40330055)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	秋山 聡 (Akiyama Akira) (50293113)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	赤江 雄一 (Akae Yuichi) (50548253)	慶應義塾大学・文学部(三田)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奈良澤 由美 (Narasawa Yumi) (60251378)	城西大学・現代政策学部・教授 (32403)	
研究分担者	森 雅秀 (Mori Masahide) (90230078)	金沢大学・人文学系・教授 (13301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関